

2026.6.5

科学新聞 2面

第67回藤原賞 東大・小林氏、科学大・菅野氏

(公財)藤原科学財団
(加采正年理事長)は5月22日、第67回藤原賞の受賞者を小林俊行氏(東京大学大学院数理科学研究科教授)、菅野了次氏(東京科学大学総合研究院特命教授)に決定したと発表した。自然科学分野の研究で科学技術の発展に貢献した功労者を対象としている。金メダルと副賞2千万円が贈られる。贈呈式は6月17日に



小林俊行氏



菅野了次氏

都内で開催される。受賞者の受賞研究課題は次の通り。

◇小林俊行氏「無限次元の対称性の数学的研究」
小林氏は一般理論の構築が長らく実現していなかっ

た無限次元表現について、離散的分岐則という現象の十分条件を与えることで「無限次元の対称性の破れ」を体系的に扱う道を開拓。同理論は幾何学手法、超局所解析的手法、代数的手法

の3手法を通じて構築され、無限次元表現の制限問題に統一的見通しを与えた。さらにこれを対称性破れ作用素の研究に展開し、非可換調和解析をはじめ幅広い分野に波及効果をもたらした。

また小林氏は「等質空間の不連続群による商の理論」を創始し、非リーマン幾何の大域幾何学に新しい視点を導入した。これまで非リーマン等質空間では一般理論がほとんど存在しなかったが、これに固有不連

続性の判定法を与えることで新たな基盤を構築した。さらにはこれら知見を2つの柱に、可視的作用という新概念を導入し、有限次元・無限次元を通じた無重複表現の統一理論の構築に成功した。